

河内国府遺跡出土遺物を包む新聞紙

山下 大輔 関西大学博物館学芸員

渡邊 貴亮 関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程

山口 卓也 関西大学博物館学芸員

1 はじめに

関西大学博物館には、明治後半から昭和初めに大阪毎日新聞社の社長を務めた本山彦一（1853-1932）が蒐集した考古学資料、通称「本山コレクション」がある。本山コレクションは、江戸時代の神代石や神田孝平旧蔵資料など明治期の考古学・人類学の学史的資料が含まれることで注目されるが、本山彦一自身が自ら発掘した河内国府遺跡、長門鑄銭司、肥前有田古陶器窯の「三大発掘」の一括発掘資料についても高い資料的価値がみとめられている。これらの多くが、本山彦一が農業博物館三階の一室に開設した「本山考古室」に収蔵展示されていた。

河内国府遺跡の発掘資料は、京都帝国大学考古学教室員であった末永雅雄先生が作成した「本山考古室要録」（末永 1935）（以下『要録』とする）に、「石器時代遺物」の第三棚 328 から 450 まで 122 件が登録されている。これらのほとんどは、本山彦一が大阪毎日新聞社をあげておこなった 1917（大正 6）年・1918（大正 7）年の第 3 回・第 4 回発掘資料である。この調査で出土した縄文時代埋葬人骨には、玦状耳飾の装着や土器の副葬、抱石が認められ、縄文時代埋葬についての貴重な知見を得ることとなった。縄文鉢形土器や玦状耳飾、丸玉は重要文化財に、埋葬人骨の頭部を覆った縄文土器破片は重要文化財附に指定されており、これらは関西大学博物館で展示し、実測図と画像などもすでに公開されている（関西大学博物館 1998）。

『要録』にはこのほかにも、「人骨と共に出土」や「人骨頭部被蓋」など縄文時代埋葬に伴う可能性のある遺物の登録がある。さらに、発掘調査当時の新聞紙片などに包まれたままになっている遺物が保管されており、これらは『要録』に登録されていない。この資料は、登録情報の読み取りと現物参照に疑問があり、これまで実測図や画像の提示がされてこなかったものであるが、2019 年度に関西大学博物館で検討をおこなった（山下ほか 2020）。よって、本稿では遺物のみならず、遺物を包んでいた新聞紙片などを検討対象とし、発掘調査の行われた当時の世情や「本山発掘隊」の姿を俯瞰してみたい。

2 国府遺跡の縄文時代埋葬人骨と遺物

『要録』の石器時代遺物第三棚 334 には石鏃と石錐の合計 3 点が登録され、「石錐 2 個 第 2 号人骨・第 7 号人骨・14 号人骨と伴出 大正 6 年 7 月」と備考がある。335 には石鏃・石錐の合計 13 点が登録され、「石鏃 12、石錐 1、第 18・12・16・11・13・12 号人骨付近出土」の備考がある。

さらに、本山コレクションの国府遺跡資料には、人骨発掘日時などの情報を筆書きした大正時代の新聞紙などに包まれて収蔵されていた遺物があって、これらは 334・335 といった『要録』の登録番号が付された痕跡が見当たらず、いままで未整理のまま残されてきたものである。本資料群

は 1975 年頃に関西大学文学部考古学研究室でおこなわれた再収納作業によって、個別に 8 つの封筒で保管されている。先述のように、2019 年度に関西大学博物館で開封・検討を行ったため、以下に紹介する。

第四号 旧十九号 封筒①

大阪毎日新聞 大正 7 年 3 月 16 日号 一面（中段右端）と二面（中段左端）広告の部分が破られて、土器片 1 点を包む。記事詳細は両面とも読み取れない。

墨書きで「第四号 旧第十九号」、張り紙で「河内国府（衣縫？） 第四回発掘（第三回は大正六年十月一日より十まで）大正七年四月一二日より五月十日まで」とある。「四号 旧十九号」は、第 4 回発掘の第 4 号人骨（旧は大串博士の通し整理番号 19 号）であると読み取れるので、新聞紙に包む際に大串発掘の通し番号から発掘回ごとの整理番号に直したことがわかる。

19 は 2 条の刻目突帯を貼り付ける土器である。胎土には角閃石を含む。詳細な時期は不明である。

第六号 封筒②

医海時報 第 1245 号 大正 7 年 5 月 4 日刊の、広告頁（47）（913）（48）（914 に土器片 3 点、石器 8 点を包む。p 47 には広告「ナルコポン及ナルコポンスコポラミン 麻酔・鎮痛剤」p48 には、広告「セラジン 鎮咳去痰新薬」が掲載される。

墨書きに「国府六号 土器」とあり、封筒①に従えば、第 4 回第 6 号人骨（大串 21 号人骨）であることになる。

石器はすべてサヌカイト製である。2 は半損品の尖頭器である。下端部に基部作り出しの二次加工がみられるため基部側とした。3・4・8・9 は石鏃およびその未成品である。4 については比較的加工が進んでおり、いわゆる鍬形鏃である。5 は求心状に剝離を進めた石核から剝離した剝片である。6・7 は石錐である。2 点とも素材剝片の末端部を利用するように二次加工を施し、機能部を作り出している。

20～22 は縄文時代前期に属すると考えられる土器である。21 は内外面ともにナデ調整が、21 の外面には縄文が施文される。22 には C 字形の刺突と斜縄文が施される。

第七号 封筒④

大阪朝日新聞 大正 7 年 3 月 16 日号の（三）面右上の部分に包まれて、土器片 2 点がある。（三）面には連載小説「維新英傑 高杉晋作」渡邊霞亭作が見える。裏面は（四）面左下の経済記事「支那政府財政顧問 阪谷男爵」などがある。

墨書きで「第七号 大正七年四月」とあり、第 4 回発掘の第 7 号人骨（大串 22 号）であることが知れる。

23 は外面ケズリ状のナデ、24 は LR の縄文が施される。小破片であるため判然としないが、いずれも縄文時代前期の土器であろうか。

第八号 封筒⑤

大阪朝日新聞 大正7年3月16日号の(一)面左下部分にあたり、予算審議に関する記事がある。(二)面には「大旋風で転覆 乗組員救出さる」「大阪商品陳列所」「四大学リーグの春季争覇戦」の記事、広告「世界的発明 工電生液 廃物乾電池之復活」などが見える。

墨書きで「第八号」とあり、第4回発掘第8号人骨(大串23号)であることが知れる。
25はRLの縄文を施した縄文時代前期の土器である。

第十号 封筒⑧

大阪朝日新聞 大正7年3月16日の(一)面の上段右側で大阪朝日新聞題字がある。朝日評壇「米の対露声明 不安は内にあり」「俘虜軍編成説」「寺伯不信心など」「馬総統探りを入れる」「後日賠償を要求せる」「船艦射撃事件警告」「東清線修復成る 高柳少将一行」など記事がある。(二)面には「独逸捕虜」の記事がある。

「第十号 爪形土器」と墨書があり、第4回第10号人骨(大串25号)であることが知れる。

26・27は爪形文と縄文が施された縄文時代前期の土器である。28は古墳時代の土師器であろうか。

第十一号 封筒③

普通紙に土器片2点、石器1点を包む。表に墨書きで「第十一号 石鏃」、裏に「第十一号 石器」とある。封筒①に従えば、第4回第11号人骨(大串26号人骨)であることになる。

石器はすべてサヌカイト製である。10は長さ29.7mm、幅24.1mmの比較的大型の石鏃である。11は石鏃である。製作に伴う破損か使用に伴う破損か判断に迷うが、先端の剥離の状況から未成品の可能性が高い。

29・30は縄文前期の土器である。いずれも外面に単節の斜縄文が施される。

十四号 封筒⑦

大阪朝日新聞 大正7年3月16日の(一)面上段左に包まれて、土器片3点、石器7点がある。(一)面上段左「露支官憲協力」「セミョーフ軍・過激派」「外国語学校ロシア語志望者減少」「衆議院予算分科会審議の記事」、(二)面上段右側「露都で肉類食べられぬ」「続々審問 予審の決定急ぐ」「第七平安丸火災沈没」などの記事がある。

墨書で「第十四号」と記して、第4回発掘第14号人骨(大串29号)であることが知れる。

石器はすべてサヌカイト製である。12・13・14・17・18はすべて石鏃未成品である。16はやや大型の石鏃未成品であると考え、下部の二次加工に基部を作出するような剥離痕がみとめられるため、「石鏃か」としている。縄文時代草創期のなかでも比較的古い時期に類似する形態の有茎尖頭器がみられるが、本品はおそらく石鏃の初期加工段階のものであろう。15は石錐である。本品の先端部および表面左側の稜が全体的に摩滅している。使用に伴うものであるか、堆積環境によるものか判然としない。

31・32は縄文が施文される縄文時代前期の土器である。33はナデ調整の土器で、小破片のため判然としないが、縄文時代の所産であろうか。

十五号十九号 封筒⑥

医海時報 第1245号の(九)(十)面に、墨書で表に「第十五号第十九号」裏に「第十五号第十九号 土器と銭」と記す。(九)面には医薬品効能紹介など、(十)面には、学会消息などの記事となっている。

第4回発掘第15号(大串30号)19号(大串34号)であることが知れる。

1は重量3.51g、直径約25mmの円形で、中央に直径約4.5mmのやや方形を呈する小孔を有する鉄製品である。錆による劣化が著しく、表面・裏面ともに観察は困難である。錆の状況から材質は青銅ではなく鉄である可能性が高い。「土器と銭」の記載があるので、当時「鉄銭」として取り上げられたものであろう。錆のため、詳細な情報を読み取ることが難しく、「鉄銭」である可能性も考慮する必要があるものの、おそらく別のものであろう。

以上、封筒に整理された新聞紙包からは、第4号人骨以降の登録番号の「伴出」した石器や土器片などが「発見」され、第3回のもは含まれていなかった。一方、『要録』に登録された334・335の人骨付近の石器には、第3回の人骨と第4回に発掘された3号人骨(通して18号人骨)までを含んでいる。

これらの状況から推測してみると、昭和の本山考古室開設時、末永雅雄先生の手による本山コレクションの整理と『要録』への登録が、このような新聞紙などに包まれた資料うち、第3回発掘のすべてと第4回の第3号人骨部分まで行われた時点で中断し、残りが未登録のまま残された可能性が考えられるであろう。第4回第3号人骨胸部上の縄文鉢形土器は、『要録』の石器時代第3冊352に、人骨頭部を覆うように出土した土器破片は354と358に登録されている。この第4回第3号人骨に伴う出土遺物は、重要文化財に指定されている深鉢形土器が著名であるが、それ以外の遺物についてはこれまであまり触れられてこなかった。そこで、人骨頭部を覆うように出土したとされる土器破片についても図化を行い、ここに紹介することとしたい。

図4の34～43が当該資料であり、いずれも縄文時代前期の北白川下層式に該当するものと考えられる。外面に羽状縄文を施すものが多い。別個体と考えられる資料も含まれていることから、これら全ての破片資料が人骨に伴うものなのかの判断は難しい。内面に「河内国府衣縫人骨被覆」と朱書きされた資料も見える。『要録』の番号が注記されたものが多く、いずれも358と記される。今回の8枚の新聞紙などの包みの墨書きには、第4回発掘の4号・6号・7号・8号・10号・11号・14号・15号と19号があり、大串博士の整理番号19号・21号・22号・23号・25号・26号・29号・30号と34号に相当することが判明する。その結果、連続した人骨番号でありながら、『要録』の334・335に続いて登録されるはずの、脱落した人骨伴出資料を復元できたと考える。

人骨伴出単位で遺物を取り上げたのは、本山発掘隊が人骨と遺物の関係を、「考古学」的にとらえていたことを示すものであろう。ただ、正確な出土位置関係が記録されていないので出土状況を確認できず、副葬品かどうかの評価は困難である。

3 河内国府遺跡発掘 1918（大正7）年の社会状況

今回紹介した縄文時代埋葬人骨伴出遺物の包みからは、1918（大正7）年第4回本山発掘隊の「その日その日」が垣間見えたことは興味深い。

本山彦一の数次にわたる国府遺跡の発掘は、大阪府藤井寺市道明寺天満宮を宿舎として行われた（南坊城 2005）。第4回の発掘は、1918（大正7）年4月10日から5月10日まで行われた。日々の発掘遺物の洗浄と注記もここで行われたらしい。この度紹介した遺物を包んだ新聞紙からは、発掘した遺物を洗浄して、人骨付近ごとに散逸しないように人骨番号を墨書きして包むという整理が行なわれたことがわかる。块状耳飾や完形縄文土器などは、注目されて別途扱われたのであろう。

新聞紙包みには、社名と発行日時があり、見開きの（一）面から（四）面がそろい、裂け目が合うことから、ひと月ほど前の3月16日付の大阪朝日新聞が引き裂かれて使われていることが分かった。本山発掘隊が遺物を包んだのだが、大阪毎日新聞でないことが興味を引く。宿舎となった道明寺天満宮の購読紙を使ったのかもしれない。

医海時報第1245号、1918（大正7）年5月4日刊は、国府遺跡発掘にかかわった医学者である大阪医科大学の大串菊太郎教授の購読紙であったのだろうか。刊行直近の購読専門学術紙を携えて発掘調査宿舎に滞在していたこと、それを裂くことに躊躇なかったことは、調査終盤に人骨周辺の精査や取り上げが大串博士の手で行われたことを示唆するものであろうか。

大阪朝日新聞社3月16日付紙面には、1918（大正7）年の国際面、経済面、社会面、広告が観察でき、往時の世情を伝える。当時の年表から、国府遺跡発掘調査が行われた時代の様相を垣間見たい。

1918年3月、1917年のロシア革命で成立したボリシェビキ政府とドイツがブレスト＝リトフスク条約を締結し、西部戦線戦では11月11日に休戦条約が結ばれ、第一次世界大戦が終結した。その結果、ハプスブルグ帝国が崩壊してチェコスロバキアとポーランドが独立し、オーストリアとハンガリーが共和制に移行した。戦争中に耐乏生活を経験したイギリスでは選挙法が改正され、30歳以上の女性に参政権が与えられた。ウイルソンの14か条の平和原則発表など20世紀の理想主義・民主主義の進捗とヨーロッパ再編の鳴動がみてとれる。

シベリアでは、捕虜となっていたチェコ軍が反革命軍として編成されたが取り残され、これを救援するためにイギリス・フランス・アメリカ・日本など連合国がシベリア出兵を行う。第14号人骨の包み（一）面上段左「露支官憲協力」「セミヨーノフ軍・過激派」「外国語学校ロシア語志望者減少」、（二）面上段右側「露都で肉類食べられぬ」は、ロシア革命の進捗とシベリアの状況に関する記事である。また第一次大戦中、日本軍との戦闘で捕虜となった（二）面「独逸捕虜」の記事がある。

中国では、ロシア革命干渉を念頭に日中秘密軍事協定を段祺瑞と締結した。これに反発した学生らがデモを決行し、「学生救国会」が成立する。第七号人骨の封筒④（四）面左下の経済記事「支那政府財政顧問 阪谷男爵」などがある。

日本国内では、第一次世界大戦下の経済好調にあって、7月22日に米騒動が発生し、物価高騰にあえぐ庶民の怒りが爆発したとされ、9月21日には寺内内閣が総辞職する。これを受けて日本

最初の政党内閣である平民宰相原敬内閣が成立する。原敬は明治 31（1898）年から大阪毎日新聞社長を務めており、本山彦一とは刎頸の交わりがあった。この時期は、大正デモクラシーの空気の中、普選運動や政党内閣制の流れの中にあつたことが知られている。大阪では、生活困窮者や疾病者を救済するため、大阪方面委員の制度が立ち上げられ、のちに全国に敷衍される。本山彦一が発議した大阪毎日新聞慈善団の活動は、1911（明治 44）年に始まっており、その活動は大阪方面員と連携して行われるようになったという（故本山社長伝記編纂委員会 1937）。

医海時報第 1245 号と大阪朝日新聞 3 月 16 日付の広告には、多数の新薬の広告が掲載されている。新しい医薬の登場は当時の最端科学の反映とも理解できる。大阪では松下幸之助が松下電気器具製作所を設立するほか、中之島の中央公会堂が落成し、大阪の都市景観の変貌が始まっていた。

同じ時期に大阪毎日新聞社では、12 月総会で 50 万円の合資組織であつた大阪毎日新聞社を、120 万円の株式会社に変更することが議決され、本山彦一が継続して社長に選挙されている。

4 本山コレクションの記憶

本山彦一の蒐集した考古学資料は、「本山コレクション」と呼称され、考古学研究史上重要な資料となっている。この考古資料とともに、それを包んでいた新聞紙もまた本山彦一が資料蒐集の過程でさまざまな活動を行い、多くの研究者と交流した証拠として、貴重な学史の一部となっている。

本山の河内国府遺跡の発掘は、先にみたような国際状況、内政状況、発掘現場の雰囲気、研究者の動きのなかで行われた。本山は、この発掘調査を行うと同時に大阪毎日新聞社を経営し、文筆を振るい、大阪毎日新聞慈善団の事業を遂行し、また別途さまざまな学術研究教育事業を推進し支援していたことも記憶にとどめておきたい。

本稿で紹介した新聞紙は、出土した遺物に由来を注記した包み紙であるが、これが滅却されないでそのまま現存している価値は大きく、本山彦一の研究資料の一環として、積極的に評価したいと考える。本稿を、本山彦一像を「本山コレクション」の蒐集家、考古学の支援者という固定的視点から大きく拡大する契機としたいと思う。

本稿は 2. の新聞記関係の記載と 3. 4. の一部を山口が、2. の縄文土器関係の記載、製図、写真を山下が、2. の石器・鉄製品の記載、製図、写真を渡邊が作成し、1. は著者全員の意向を集約して山口が執筆して渡邊が全体をとりまとめた。本稿における石器および鉄製品はすべて等倍で掲載している。

謝辞 本稿を執筆するにあたり、伊藤信明氏、田附勝氏、文珠省三氏には多くのご教示をいただきました。末筆ではありますが、ここにご芳名を記し、深謝いたします。

引用・参考文献

天野末喜 2001 「河内国府遺跡における縄紋墓地と集落」『石川流域遺跡群発掘調査報告XVI』藤井寺市教育委員会
 池田次郎 1988 「河内・国府遺跡の人骨」『橿原考古学研究所論叢』10 奈良県立橿原考古学研究所
 大串菊太郎 1920 「津雲貝塚及国府石器時代遺跡に對する二三の私見」『民族と歴史』第3巻第4号
 関西大学博物館 1998 『博物館資料図録』関西大学
 故本山社長伝記編纂委員会 1937 『松陰本山翁』大阪毎日新聞社
 末永雅雄 1935 『本山考古室要録』富民協会
 南坊城光興 2005 「国府遺跡発掘と道明寺天満宮」『阡陵』No.50 関西大学博物館
 山下大輔・渡邊貴亮・山口卓也 2020 「河内国府遺跡出土縄文時代埋葬人骨周辺出土の遺物」『関西大学博物館紀要』第26号 関西大学博物館

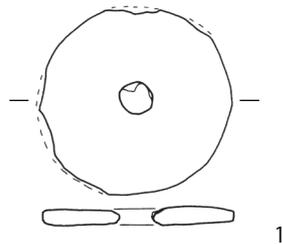


図1 鉄製品実測図



写真1 鉄製品写真

表1 国府遺跡人骨周辺鉄製遺物表

人骨番号	封筒番号	番号	種類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)
十五・十九号人骨	⑥	1	鉄製品	24.0	26.0	3.7	3.51

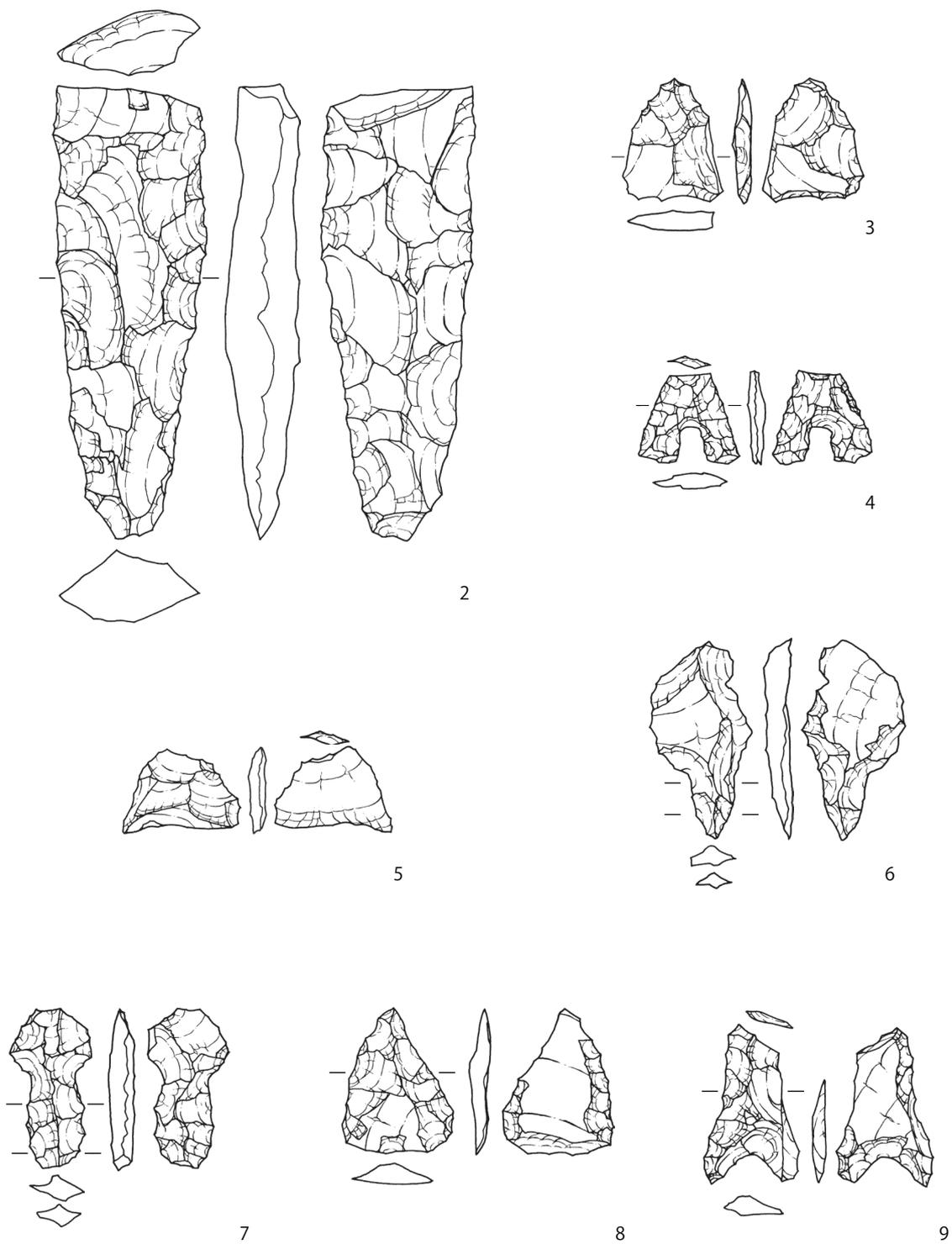


图2 国府遺跡人骨周辺石器実測図 (S=1/1)

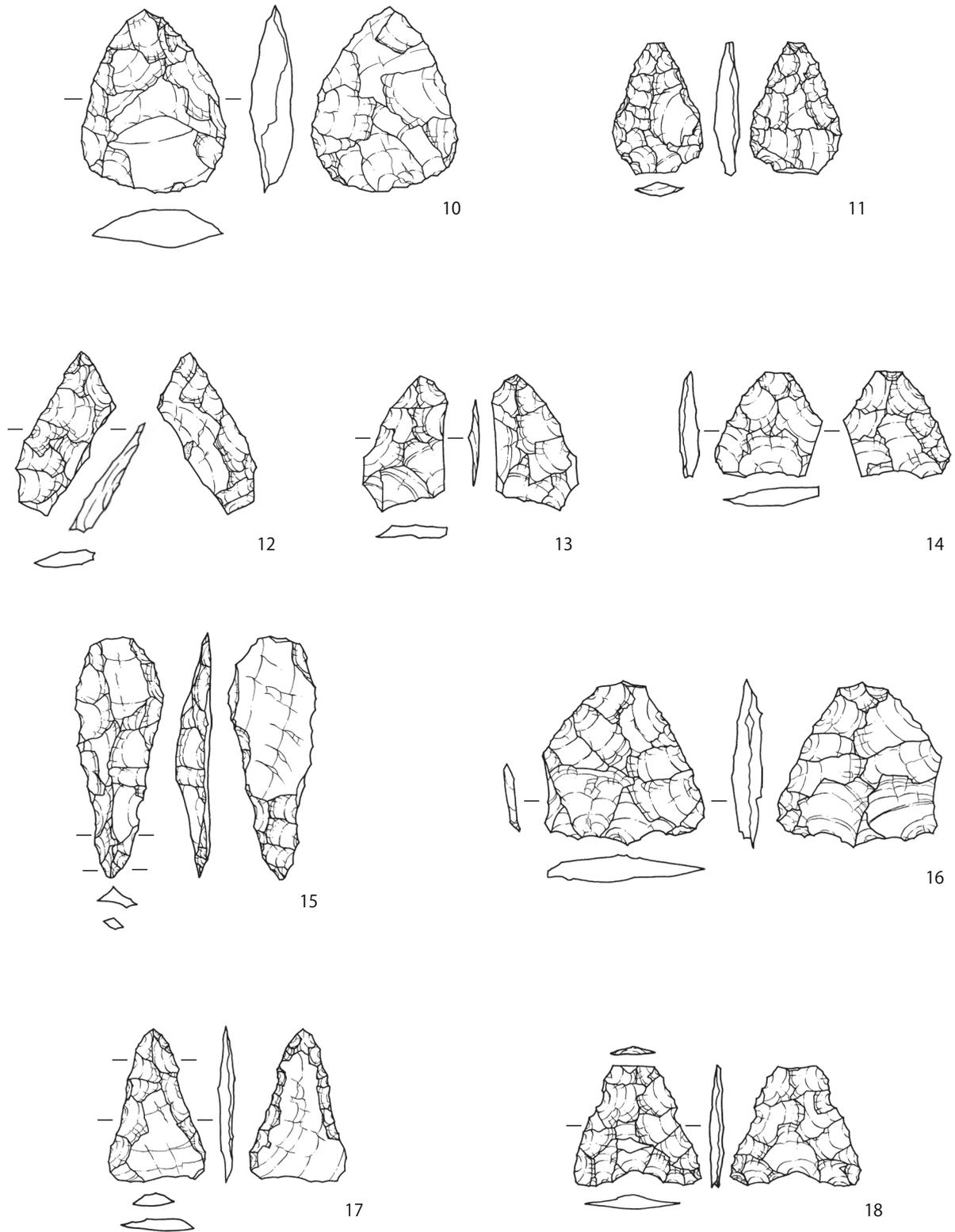


図3 国府遺跡人骨周辺石器実測図 (S=1/1)

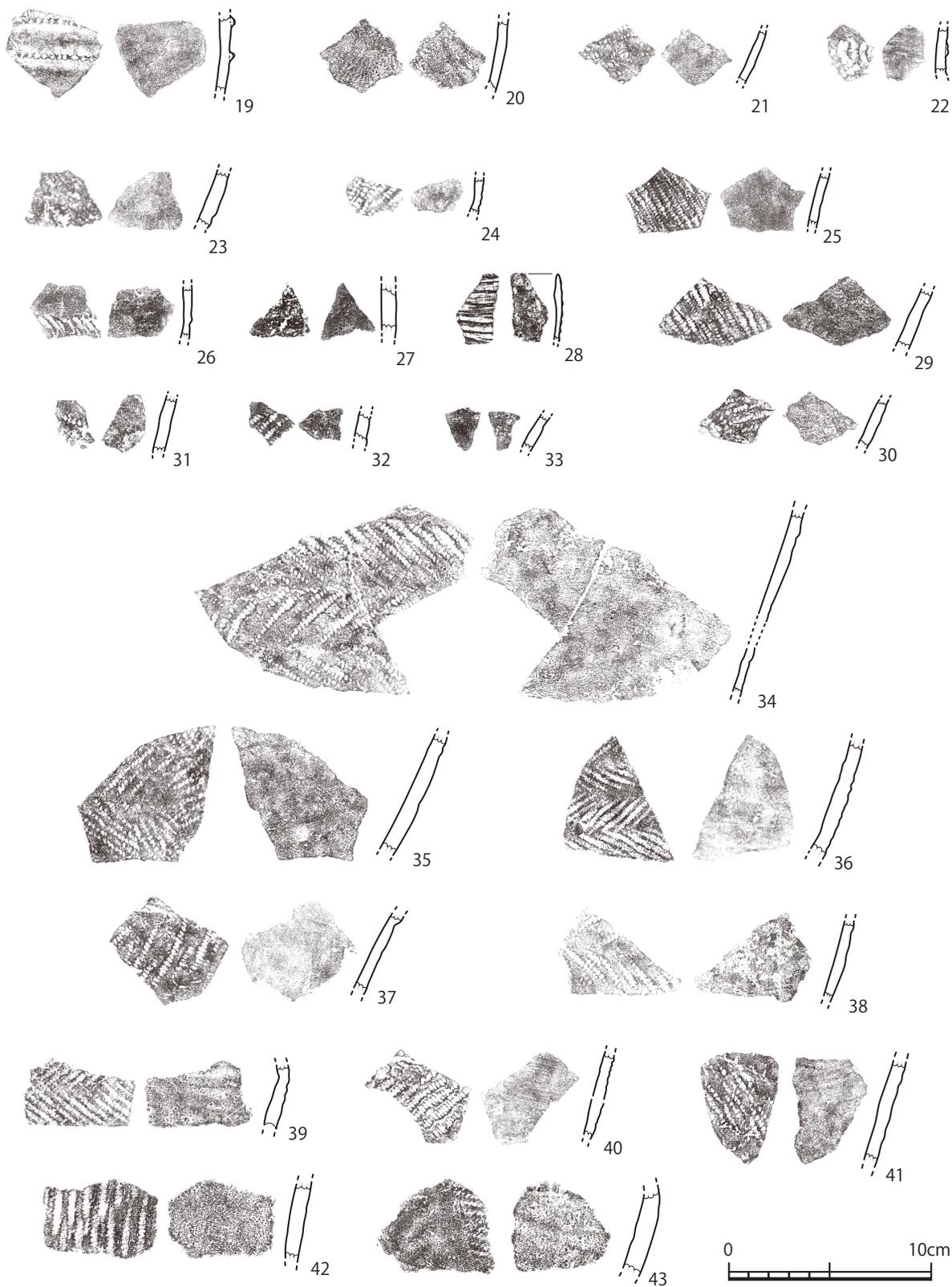


图4 国府遺跡人骨周辺土器実測図 (S = 1 / 3)



写真2 国府遺跡人骨周辺石器写真(S=1/1)

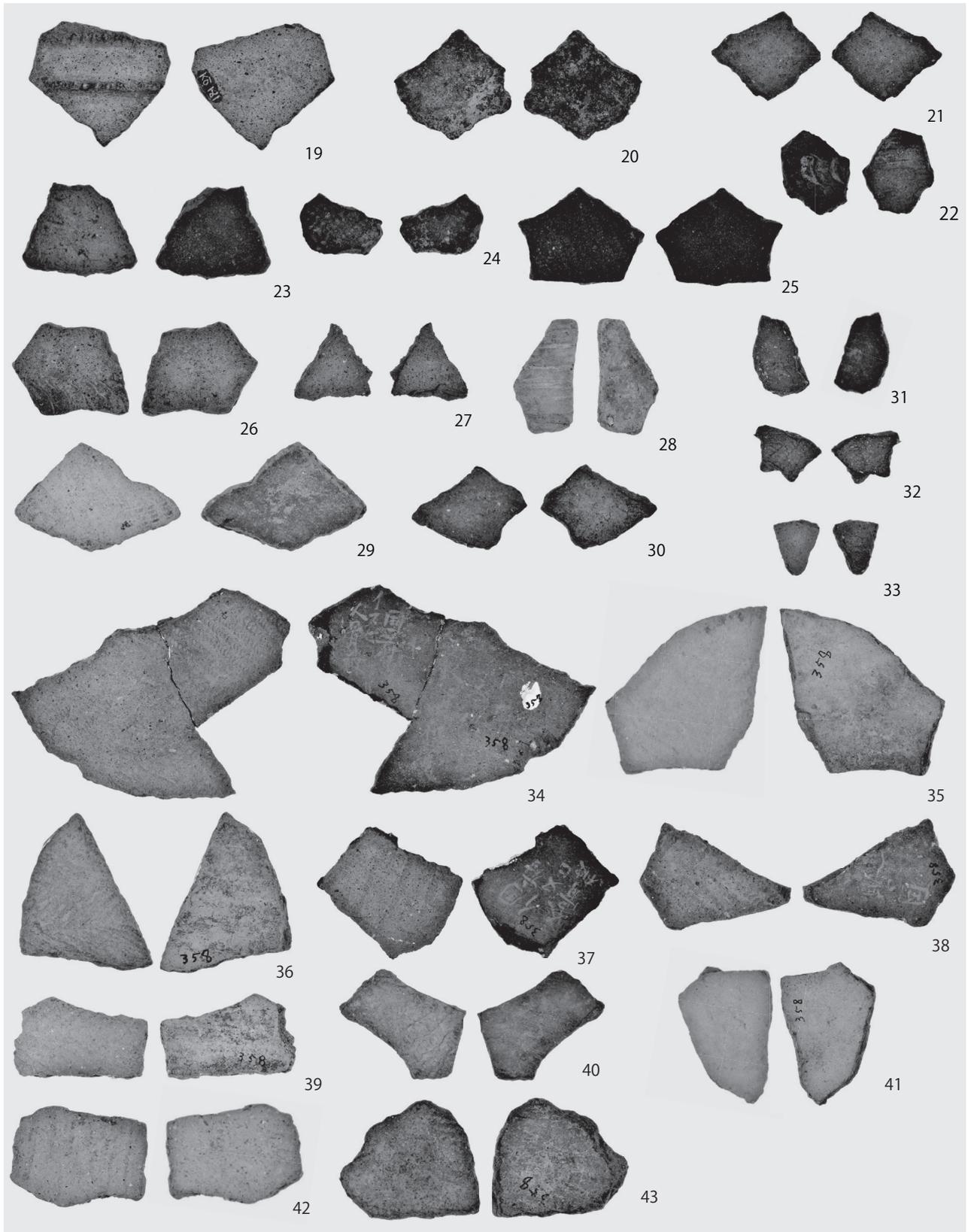


写真3 国府遺跡人骨周辺土器 (任意縮尺)

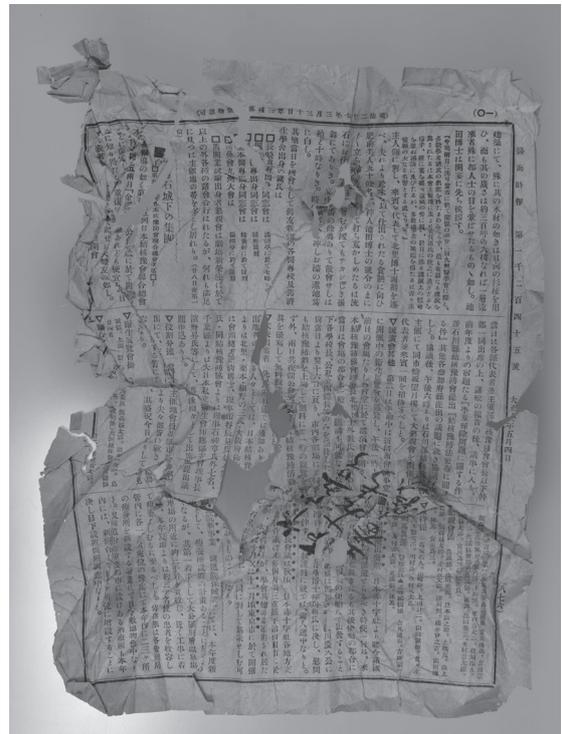
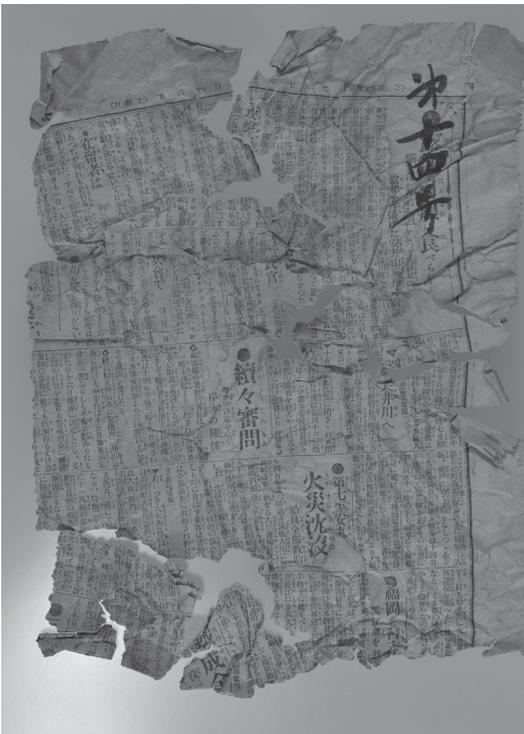
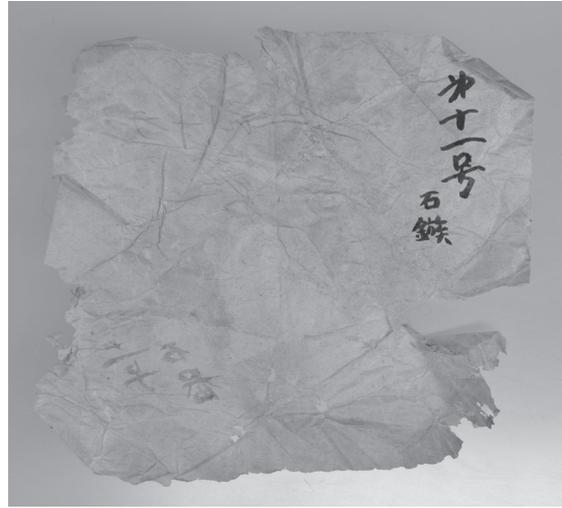
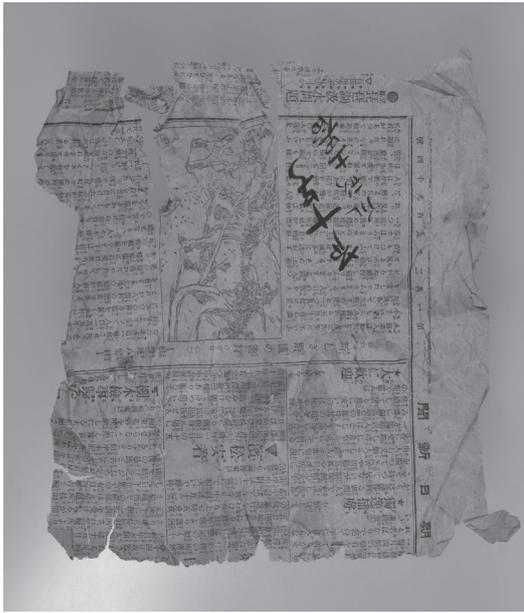


写真5 遺物を包む新聞紙など

表2 国府遺跡人骨周辺石器一覧表

人骨番号	封筒番号	番号	種類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
六号人骨	②	2	尖頭器	70.8 (+)	23.9	11.1	18.69	サヌカイト	基部側
		3	石鏃	18.9	15.6 (+)	3.0	0.87	サヌカイト	未成品
		4	石鏃	14.3 (+)	15.2	2.3	0.42	サヌカイト	鏃形鏃
		5	剥片	13.5 (+)	17.3	2.4	0.51	サヌカイト	
		6	石錐	30.4	15.6	4.4	1.65	サヌカイト	未成品
		7	石錐	24.8 (+)	12.4	4.1	1.17	サヌカイト	
		8	石鏃	22.2 (+)	17.1	2.8	0.94	サヌカイト	未成品
		9	石鏃	24.2 (+)	14.4 (+)	3.1	0.87	サヌカイト	未成品
		十一号人骨	③	10	石鏃	29.7	24.1	6.1	5.08
11	石鏃			21.4 (+)	14.5	3.8	1.14	サヌカイト	
十四号人骨	⑦	12	石鏃	27.2 (+)	16.6 (+)	3.4	0.94	サヌカイト	未成品破損
		13	石鏃	22.2 (+)	13.5 (+)	2.3	0.67	サヌカイト	未成品破損
		14	石鏃	17.6 (+)	17.2 (+)	3.2	0.89	サヌカイト	衝撃剝離痕
		15	石錐	40.0	14.1	5.8	2.74	サヌカイト	
		16	石鏃か	27.2 (+)	26.7 (+)	4.6	2.93	サヌカイト	未成品
		17	石鏃	24.7	15.4	2.2	0.80	サヌカイト	未成品か
		18	石鏃	19.6 (+)	20.9	2.2	0.73	サヌカイト	

番号は図・写真及び本文と対応 表中の (+) は欠損を表す

表3 国府遺跡人骨周辺土器一覽表

人骨番号	封筒番号	番号	種類	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	重量(g)	胎土	備考
四号人骨	①	19	縄文土器か	刻目突帯	ナデ	灰色	灰色	13.00	角閃石含む	裏面に「第四号人骨出土」朱書有
		20	縄文土器	ナデ	ナデ	黒褐色	黒褐色	6.85	白色鉱物含む	縄文前期か
六号人骨	②	21	縄文土器	縄文(LR)	ナデ	灰色	灰色	4.32	角閃石・白色鉱物含む	縄文前期
		22	縄文土器	縄文(LR) C字刺突	ナデ	黒褐色	茶褐色	3.93	白色・黒色鉱物含む	縄文前期
		23	縄文土器か	ケズリ状ナデ	ナデ	赤褐色	黒色	10.18	角閃石・白色鉱物含む	
七号人骨	④	24	縄文土器	縄文(LR)	ナデ	黒灰色	黒灰色	3.14	精緻	縄文前期
		25	縄文土器	縄文(RL)	ナデ	黒褐色	黒褐色	6.71	精緻	縄文前期
八号人骨	⑤	26	縄文土器	爪形文	ナデ	灰褐色	灰褐色	5.60	角閃石・白色鉱物含む	縄文前期
		27	縄文土器	爪形文 縄文(LR)	ナデ	茶褐色	茶褐色	5.40	雲母・角閃石含む	縄文前期
		28	土師器か	微隆起線	オサエ	橙色	橙色	2.27	精緻	
十一号人骨	③	29	縄文土器	縄文(RL)	ナデ	黄橙色	灰色	11.34	白色鉱物含む	縄文前期
		30	縄文土器	縄文(LR)	ナデ	灰褐色	灰褐色	5.17	白色鉱物含む	縄文前期
		31	縄文土器	縄文(RL)	ナデ・オサエ	茶褐色	黒褐色	3.88	長石含む	縄文前期
		32	縄文土器	縄文(LR)	ナデ	灰褐色	灰褐色	2.94	長石含む	縄文前期
十四号人骨	⑦	33	縄文土器か	ナデ	ナデ	黄褐色	灰褐色	1.67	長石含む	縄文前期か
		34	縄文土器	羽状縄文	ナデ	黄灰色	黒褐色	73.39	白色鉱物含む	縄文前期 内面に「河内国府衣縫人骨被覆」朱書有
		35	縄文土器	羽状縄文	ナデ	黄橙色	灰褐色	34.32	長石含む	縄文前期
		36	縄文土器	羽状縄文	ナデ	灰褐色	灰褐色	28.11	長石含む	縄文前期
		37	縄文土器	縄文(LR)	ナデ	灰褐色	黒褐色	18.32	角閃石・白色鉱物含む	縄文前期 内面に「河内国府イヌヒ人骨被覆」朱書有
		38	縄文土器	羽状縄文	ナデ・オサエ	黄褐色	黒褐色	15.94	角閃石・白色鉱物含む	縄文前期 内面に「国府」朱書有
		39	縄文土器	羽状縄文	ナデ	灰黄褐色	黄橙色	16.82	長石含む	縄文前期
十八号(第四回三号)人骨	—	40	縄文土器	羽状縄文	ナデ	黄橙色	茶褐色	11.47	白色鉱物含む	縄文前期
		41	縄文土器	縄文(RL)	ナデ	灰褐色	灰褐色	16.94	黒色鉱物を含む	縄文前期
		42	縄文土器	縄文(RL)	摩耗	灰色	灰色	24.45	白色・黒色鉱物含む	縄文前期
		43	縄文土器	縄文(LR)	ナデ	灰褐色	灰褐色	31.78	白色・黒色鉱物	縄文前期

番号は図・写真及び本文と対応